

データと想いで育てる、地域につながる農業

JAバンク大阪では、大阪農業振興のため「農業者の所得向上・満足度向上」を目指し、新規就農希望者からベテラン農業者まで幅広い支援を行っています。

本記事では、JAと信連が実施する担い手コンサルティングを活用した生産者の「生の声」をお届けします。

担い手コンサルティング



今堀 淳二 さま

食と命への想いを原点に就農。現在は能勢町で有機野菜の栽培に取り組みながら、地域への恩返しを胸に、人と地域をつなぐ農業を目指している。

食と命への想いから始まった農業の道

今堀さんが農業の道を志した原点には、「食」と「命」への深い思いがある。大学卒業後、飲食店で働くなかで食への関心を高め、さらに母の死という経験を通じて命そのものに向き合う時間を重ねるうちに、その関心は次第に農業へと向かっていった。農業イベントへの参加や農業者との交流を通じて思いを深め、約2年間の研修を経て、32歳のとき能勢町での就農を決意。以降、多様な野菜の有機栽培に取り組みながら、販売先との信頼関係を築き、着実に営農の基盤を築いてきた。

担い手コンサルティングで見つめ直した営農のかたち

就農後の歩みは、決して平坦なものではなかった。天候や作業量に左右される日々の中で、自らの仕事と向き合い続けてきた。経験を積むにつれ、作業の進め方や品目ごとの特性に手応えを感じる一方で、「感覚」に頼らざるを得ない場面への課題意識も芽生えていく。自分の営農を、より確かな根拠に基づいて見つめ直したい。収支を安定させ、農業の形を残して地域へ恩返ししたい——そうした思いが次第に強まっていた。

転機となったのは、JAと信連による担い手コンサルティングだった。本取組を通じて品目別の収支や作業内容を丁寧に記録することで、営農の実態を客観的に捉えられるようになった。品目ごとの収益性や作業効率の違いが明確になるにつれ、経験と符合する部分には確かな手応えを、新たな発見には次の可能性を見いだしていった。数字として振り返ることで、自らの営農の強みや課題も具体的に意識できるようになり、日々の作業一つひとつへの考え方にも変化が現れている。

地域と人をつなぐ農業へ

今堀さんが見据えているのは、単に野菜を生産するだけの農業ではない。自身の営農を通じて地域に何ができるのかを考え、「地域への恩返し」を大切なテーマとして取り組んでいる。これまで築いてきた農業経営を将来につなげ、自分が現場を離れた後も継続できる農業の形を残したいという思いは強い。

その実現のためには、経営の安定化が欠かせない。担い手コンサルティングを活用したのも、持続可能な経営基盤を築くためである。さらに、地域の担い手育成にも力を入れたいと考えており、「農業をやってみよう」と思う人が増えるような魅力ある経営を目指す。農業が将来の職業として選ばれ、地域の中で受け継がれていく環境づくりにも目を向けている。

さらに現在は大学と連携し、都市と農村のつながりを深める取組にも挑戦中だ。田んぼを開放してイベントを開催するなど、消費地に暮らす人々が農村に足を運び、農業や地域の魅力に直接触れられる機会を提供している。こうした活動を通じ、生産者と消費者の距離を縮めるだけでなく、地域の価値を広く発信することにもつながっている。

今後は、消費者参加型の農業の実現を目指す。農家レストランや民泊の開設を構想しており、都市部から訪れた人が収穫し、食べ、滞在するという一連の体験を通じて農村への理解を深めてもらいたい考えだ。こうした交流を積み重ねることで関係人口を増やし、地域に人呼び込みながら農村の活力維持につなげていくことを目指している。今堀さんにとって農業とは、食を生み出す営みであると同時に、人と地域を結び付ける大切な役割を担うものなのである。

食と命に向き合う中で選り取った農業の道。今堀さんは、これまでの経験で培った現場感覚と、担い手コンサルティングの取り組みを通じて積み重ねたデータの確かな裏付けを重ね合わせながら、自らの農業経営をより良いものへと高めている。その取組は、一経営体の枠にとどまらず、地域農業にとっても参考となるものであり、営農の質の向上や農を通じた地域振興にもつながっていくことが期待される。今堀さんの歩みは、これからの地域の発展を支える一つのモデルとして、着実に広がりを見せている。



Field Notes

今堀さんとは、補助金申請の窓口業務を通じて知り合いました。当時から、若手農業者でありながら従業員を雇用し、意欲的に経営に取り組まれている姿

が印象的でした。今回あらためてお話を伺い、野菜の栽培だけでなく、農家レストランの運営や地域貢献など、将来を見据えた明確なビジョンを持ちながら営農されていることを知り、その熱意と行動

力に感銘を受けました。農業に対する芯の強さを持ち、地域の発展まで見据えて挑戦を続ける今堀さんは、地域農業を支える大切な担い手です。

JAとしても、これまで培ってきた関係を

大切にしながら、さまざまな場面で力になれるよう支援を続け、今後も地域を元気にする取組をともに進めていきたいと考えています。

JA大阪北部
営農生活部 営農課
課長代理 稲葉 豊



JA大阪北部
営農生活部 営農課
課長 中森 歩